

ベストクラス選定理由書

作成者：井上泰雅、藤原駿也、窪彩花、佐藤歩実、手塚千尋、松田梨奈、西岡伸紀

科目名称 初等家庭科教育法 (①クラス) (担当教員名：永田智子、花輪由樹、岸田恵津、星野亜由美、鈴木千春、相川美和子、小林裕子)	
課程： 学部	開講時期： 後期
授業形態： オンライン	授業規模： 81人以上
取材対象授業者名： 永田 智子 (実地日時：2021年8月19日(木)； 実地形態：Zoomによる実施)	
取材対象受講生名： 新濱 由梨、前川 遼太 (実地日時：2021年8月19日(木)； 実地形態：Zoomによる実施)	
<p>選定理由</p> <p>○アンケート取材から 回答者割合 125/186 であり、大規模クラスにもかかわらず回答者が多く、評価も高かった。コメントでは、学生の多様なニーズに対応したオンラインと対面の効果的な実施、オンラインでの模擬授業動画の作成、動画の相互の閲覧などが挙げられていた。担当者間の連携、指導案へのフィードバック、適切な課題、学生へのフォローなどオンライン以外に関わる様々な手立てがとられていた。ハイブリッド形式、オンラインの特性の活用など、困難な現状における授業方法に大きな可能性が示されていた。</p> <p>○授業者の取材から ・目標・専門的内容・指導方法を、実践・体験を通して学ぶために、さまざまな工夫がなされていた。パンデミックによる不測の事態において、当初の計画とは違った講義になり、学生の反応が直接見えない講義が多くなる中、実習はグループの数を増やして集まる人数を最小にし、実習回数を一回にすることで実践的、体験的な質を維持していた。 ・課題としては、予定にあった模擬授業は、急遽次善策が求められ、学生に動画形式での提出の形を取ったが、動画の質にばらつきが見られたことである。事前指導を手厚くし、動画の撮影方法についても詳細を提示することを対策案として考えている。 ・例年ポートフォリオを活用し、学生の学びの可視化や、教員同士の授業の共有に役立っている。これらは今後も行い、視覚的な学びの理解に活用する。</p> <p>○受講者への取材から ・教員が衣食住分野に分かれているため、より専門性の高いフィードバックが得られ、授業意欲も高かった。後期においてこの講義だけ模擬授業があったため、指導スキルの向上のための機会が有難かった。 ・他の授業の専門に返す土台となり、生活の中で直接的に活用できる知識を身につけることができ、この講義のみで完結するのではなく更なる学びへと繋げることができた。</p> <p>以上のことから、本授業を令和2年度「ベストクラス」として選定する。</p>	